

第28回

学生と教職員の交流の場

学内と社会を結ぶ交流の場

琉大21世紀フォーラム



日時

平成21年 5月15日(金)
17:15~18:15

場所

琉球大学法文学部新棟 2階215教室

話題：「地震に弱いピロティ住宅が多い沖縄へのメッセージ」

発表者：山川 哲雄（琉球大学工学部教授）

内閣府発行の「平成20年度版防災白書」によれば、地球上の地震の20.7%が集中する日本国にあって、沖縄本島はこれまで97年間にわたり震度5以上の大きな地震に見舞われていない。しかし、文部科学省が発表した2007年度版地震動予測地図によると、今後30年間に那覇市が震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が九州・沖縄地域では15.4%で最も高い。沖縄本島といえども地震のない安全・安心な島ではないのである。地震が活動期に入った今日、地震防災・減災に関する研究は急がれている。一方、沖縄県は全県一律日本で一番低い0.7という地震地域係数に加えて、高温・多湿の環境、土地の狭小さ、車社会という要因等により、沖縄ではピロティ住宅が好まれるし、また上記のように地震地域係数がゆるいのでピロティ住宅の耐震設計が容易である。しかし、過去の地震被害からピロティ住宅は地震に弱いことが広く認知され、阪神・淡路大震災後の1995年12月、建設省(今の国土交通省)告示でピロティ建築物の耐震設計強化が図られたが、沖縄のピロティ住宅は大地震に、はたして耐えられるだろうか。そのために果たす工学の役割とは？

発表者 プロフィール



山川 哲雄

琉球大学工学部教授

略歴

1946年 福岡県生まれ
1969年 九州大学工学部
建築学科卒業
1971年 九州大学大学院
修士課程修了
1994年 清水建設、九州大学
助手、琉球大学助教授を
経て琉球大学工学部教授
2007年 琉球大学工学部長

教育 建築構造力学Ⅰ、耐震設計概論、構造解析学持論ほか
(学部と大学院(修士、博士))
研究 震前・震後の建築物の耐震補強及び復旧技術に
関する研究開発を中心に
社会活動 日本学術振興会科学研究費委員会第1段審
査委員、日本建築防災協会評価委員ほか
特許 4件、出願中2件
外部資金 科研(基盤A、B(3件)、C)、国土交通省建設
技術研究開発費補助金ほか

主催：琉球大学生涯学習教育研究センター

問合先：琉球大学学術国際部地域連携推進課

TEL：098-895-8019

(事前に参加登録する必要はありません)



●今後のフォーラム（予定）●

第29回 講 師：中村 透（琉球大学教育学部教授）
 話 題：「未定」
 日 時：2009年 6月 5日（金） 17：15～18：15

第30回 講 師：宜保 清一（琉球大学副学長・農学部教授）
 話 題：「土砂災害の合理的な防止・軽減対策をめざして」
 ～ 地域連携の重要性 ～
 日 時：2009年 6月 19日（金） 17：15～18：15

第31回 講 師：秋永 孝義（琉球大学農学部教授）
 話 題：「未定」
 日 時：2009年 7月 3日（金） 17：15～18：15

※なお、学外来訪者をお願いして臨時フォーラムを開催することがあります。

建物配置図



法文学部新棟2階

